「平成１８年度普及に移す成果」

農林 61 号の適正粗タンパク質含量を目指した追肥のための茎立ち期及び出穂期予測法

農業総合センター農業研究所

追肥時期を判定する時期である茎立ち期の目安は、草丈が 27cm 程度に達した時期です。出穂期は、播種期や調査地域にかかわらず幼穂長と出穂期までの積算気温から予測することができます。

草丈からの主稈長の予測

草丈と主稈長には正の相関が認められます(図 1)。これから導き出された主稈長が 20mm に達する茎立ち期は、草丈が約 27cm となります(表 1)。そのため、茎立ち前の 24cm 程度から主稈長を調査することにより茎立ち期を正確に判定することができます。

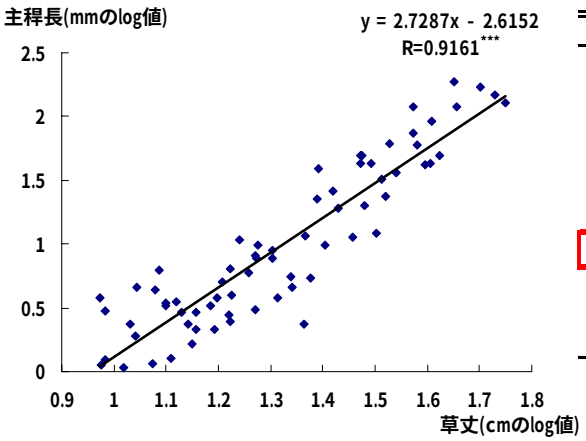

図 1　草丈と主稈長の関係

表1　草丈と対応する主稈長

草丈(cm)	主稈長(mm)
5	0.2
10	1.3
15	3.9
20	8.6
25	15.8
26	17.6
27	19.5
28	21.6
29	23.7
30	26.0

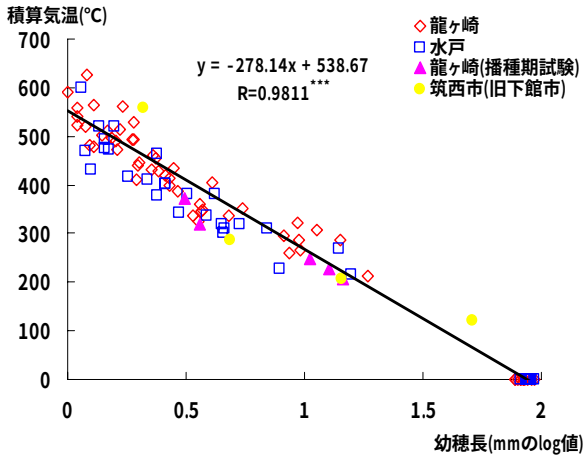

図 2　幼穂長(1mm 以上)と出穂までの積算気温の関係

出穂期の予測法

主稈の幼穂長(1mm 以上)と幼穂調査日の翌日から出穂期までの積算気温には密接な関係があり、播種期、調査地点にかかわらず同じ関係式で予測することができます(図 2)。アメダス等の平均気温のデータを用いることにより、図 3 のような予測表を作成することができ、現地圃場で幼穂長を測定することにより、その場で出穂期を予測することができます。

注意点

本手法は県栽培基準に準じた適正な生育の農林 61 号に適用することができます。しかし、出穂期に近い時期での予測はできません。県内各アメダスデータから予測した予測表は配布可能です。

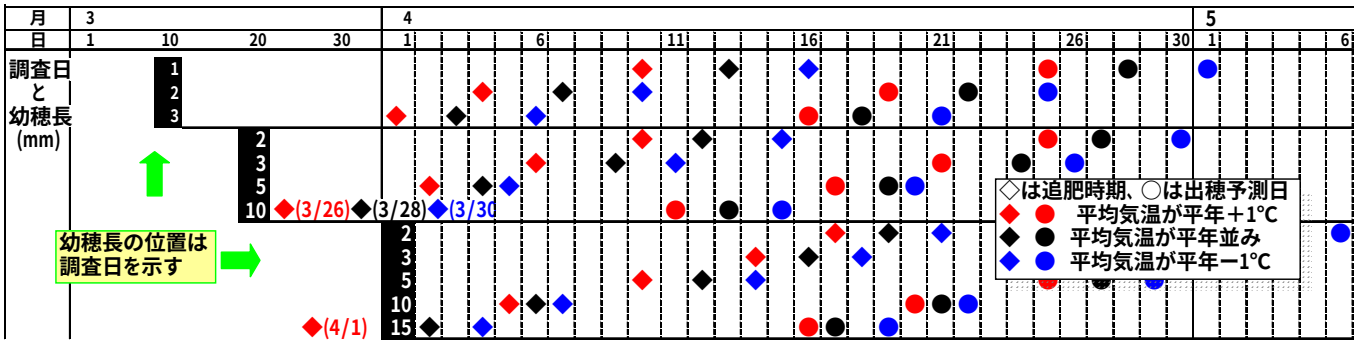

図 3　農林 61 号の出穂期予測(龍ヶ崎用)

＜問い合わせ先；農業研究所水田利用研究室　　電話 0297（62）0206＞